

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
71022	2	前期	必修	1	15
授業科目名 (英文)	ボランティア論 (Volunteer Outline)				
担当教員名	齋藤 信夫				
授業の概要及び到達目標					
<p>1995年の阪神淡路大震災では「ボランティア元年」と言われ、ボランティアに関する制度や多様な取り組みが始まりました。2011年の東日本大震災以降、ボランティア活動に対する関心はますます高くなり、多様な人々がボランティア活動に参加する機会を得るようになり、「21世紀はボランティアの時代」といわれております。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>現代の日本においてボランティアはどのような意義があるのかをとらえ直し、共生社会や医療保健の推進におけるボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察し、ボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機とします。</p> <p>ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し、ボランティアにより共に自己実現を図ることを理解し行動につなげたい。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>新しい公共の実現に向けて、さまざまな社会的課題解決に取り組むボランティアについて解説し、市民社会や医療保健の推進にとって不可欠な、現代社会におけるボランティアについての理解を深め、社会化し自立した看護師・養護教諭としての知識と社会観を養い、コミュニケーションとホスピタリティを豊かにすることを目標とします。</p> <p><b>【未来への確かな希望を持って生きる力】【自助/公助に次ぐ第三の助け合い共助】</b>をともに学びあいます。</p>					
準備学習等					
<p>双方向の授業をするので、常に真摯な態度で臨むこと。</p> <p>ファストフードのマクドナルドをご存知ですね。マックは長期入院児童の家族の支援活動をボランティアとともに展開しています。</p> <p>ボランティア活動は日々の暮らしと深くかかわっているため、生活の中で、通学途中で「あれ?!」ということをお願いしたい。たとえば駅や交差点などにある点字ブロックは何のためにあるのか、それが本当に役立っているのだろうか。そんな社会的事象に疑問や不思議や関</p>					

心を持ち、一緒に授業を作っていくために私たちが暮らす社会や世界に関心を向けること。毎日の新聞や町内会の掲示板など身の回りの情報や出来事に関心を持つことが社会を身近に感じる第一歩になります。

毎回のリアクションペーパーでは考えをまとめて書くことが求められています。自分と社会のかかわりに気づき、自分の生き方を省みて積極的に物事に取り組む態度を身につけておいてほしい。

授業の後は、「ボランティア」というキーワードの意味を自分自身の生活・経験に照らして感じ考え整理することが大切です。毎回、自分で授業ノートをまとめ、社会事象と照らし合わせ、現代社会や課題解決にとってのボランティアの意義を考察してください。

ボランティア活動の経験の有無に関わりなく、自分の将来や生き方に活かそうという意志があれば学習成果は大きくなります。

成績評価の方法	レポート評価 40% 毎回のリアクションペーパーの内容を評価 試験 60% 理解度の確認とボランティアについての考察を評価
テキスト	なし 授業概要については資料としてプリントを配布します
参考図書	岡本栄一（監修）、「ボランティアのすすめ」－基礎から実践まで」、ミネルヴァ書房 日々の新聞やニュースに関心を持つこと
備考	○学生へのメッセージ 本講は座学なので、選択科目「ボランティア活動」を履修し実体験することが望まれる。 ○オフィスアワーについて 質問などがあればリアクションペーパーに記入してください。ペーパーで返すか、授業で取り上げます。
授 業 計 画	
<p>「ボランティアは究極の娯楽」「ボランティアが動く、社会が変わる」という考えがあります、何故なのか一緒に考えていきましょう。</p> <p>できるだけ一方通行の授業ではなく、講義、ワークショップ、討論、ビデオ視聴など多様な手法をもちい、皆さんとやり取りをしながら進める参加型授業を目指します。</p> <p>第1回：科目説明、授業のルール、レポートと試験について ボランティア活動のイメージをワークショップで探る 視聴覚教材「高校生のボランティア活動」でボランティアの世界を知る</p> <p>第2回：ボランティアの理念とサービスマナー 奉仕活動とボランティアを考えます 視聴覚教材「住民が病院を支える」で住民参加のボランティアの可能性を探る</p> <p>第3回：ボランティア活動の現状と課題 ワークショップによってボランティアについて多面的に考えあいます 学校教育の中でのボランティア活動の現状と課題を主とする</p> <p>第4回：ボランティア情報の検索とコンタクト インターネットを使って〈パソコン持参〉</p>	

※選択で「ボランティア活動」をとる人は活動体験先を探しましょう

医療現場や学校教育現場でのボランティアを検索する

第5回：新しい公共を創り出すボランティア NPO・NGO の概念と現状

第6回：各国のボランティア事情 ボランティアに対する政策や取組みの違いについて

第7回：災害とボランティア ボランティアする側・受ける側の関係を考察

視聴覚教材「泥まみれの34日」

第8回：生き方としてのボランティア

医療者・教諭としてのコミュニケーションとホスピタリティを豊かにするために

定期試験

社会的な出来事を随時授業に取り込むので視聴覚教材の活用を変更することがあります

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
71023	2	後期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	ボランティア活動 (Volunteer Activity)				
担当教員名	齋藤 信夫				
授業の概要及び到達目標					
<p><b>【概要】</b></p> <p>自分の興味や関心に基づいた実践活動をする事。</p> <p>①チームを編成し、いくつかのテーマごとのグループに分かれ、どんなボランティア活動を行うかを討議決定して、積極的にボランティア活動を実践</p> <p>②自分たちで(もちろん個人でも可)で活動テーマを協議し取り組む</p> <p>③実際に行われているボランティア活動に参加するでもよい。</p> <p>体験の前の学び、体験を通じた気づき、体験の客観視と共有によって具体的に社会を知り、社会性を身につけ、今後の学生生活や職業人(医療者・養護教諭)としての人生に活かせるものを見出す。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>ボランティアの実践活動することによって「援助し、援助される関係」を体験し、「ともに生きる」ボランティア活動を理解するとともに、現代社会の課題や背景や取組みについて具体的に体験的に理解し、ボランティアの社会性と可能性を考えます。</p> <p>体験することが目的ではなく、体験からの学びによる共生社会の具現化を目的とします。</p>					
準備学習等					
<p>家族援助活動(祖父母の介護など)とボラバイト以外であればボランティア活動の対象とします。</p> <p>どんな活動をするのかは各自で考え、選び、交渉することになります。身近な地域の情報(「社会福祉便り」、「ボランティアセンターニュース」など)をこまめに読み、関心ある領域、課題について調べることによって、それらに取り組んでいるボランティアやNPOが見つかります。</p> <p>大切なことは単にボランティアを体験することではなく、医療者・養護教諭としてどんな課題に取り組む何をするのか、活動の中で考えることが肝要です。</p> <p>相談は随時メールなどで対応します。気軽に相談してください、サポートします。</p>					
成績評価の方法	活動計画書(30%)と活動報告書(40%)と報告会レポート(30%)を評価する 事前と事後の授業の欠席は単位を認めない				

テキスト	なし 「ボランティア活動はじめての一步」のプリントを配布します
参考図書	ボランティア活動先に関連する図書・資料については授業及びメールで随時紹介します
備考	相談や質問は「ボランティア論」「ボランティア活動」の授業終了後やメールなどでも対応するので、遠慮なく声掛けしてください。
授 業 計 画	
<p>ボランティア論の授業④で活動先の選び方等を説明します。</p> <p>活動前の集中講義</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の基礎知識①ボランティアする側とされる側について/安全対策</li> <li>2. ボランティア活動の基礎知識②マナーと活動のための留意事項</li> <li>3. 活動計画の作成に向けて <ul style="list-style-type: none"> <li>どんな活動を（どこで、何をするのか）、どのような形態・時間ですか、</li> <li>※医療者・養護教諭としての観点で活動計画を作成（計画書が評価対象となります）</li> <li>前期終了日までに提出</li> <li>（活動先や活動内容の変更は認めますが、変更理由を報告書裏面に記入すること）</li> </ul> </li> </ol> <p>ボランティア活動実践（夏季休暇中または休日、授業の空き時間など）</p> <p>20 時間以上 30 時間程度 出来れば体験で終わることなく継続的に続けて欲しい</p> <p>3 日以上は活動すること 一人でしても、仲間と一緒にでもかまいません</p> <p>ボラバイト(アルバイトの要素を含む活動)と家族介護等は対象外とします</p> <p>趣味や特技を活用した活動や苦手の克服のための活動なども可能</p> <p>&lt;参考&gt;病院や福祉施設での活動が多いが、母子父子家庭の児童への学習支援/日本語指導/食育の指導助手/援農作業/障害児者へのスポーツ指導補助/ジャズフェスティバルの運営/サマーキャンプの支援・調理や野外活動/孤児院や学校建設・海外で/植林/被災地での支援 などなど</p> <p>※実習予定先や海外でのボランティア活動を計画する場合は教務部に相談すること</p> <p>実践の中で目に見えるもの、見えないものから社会の実相と自己を再発見</p> <p>※活動を終えての活動報告書を提出します（レポートが評価対象となります）</p> <p>提出期限は夏休み明けの第一週</p> <p>活動終了後の集中講義</p> <p>活動報告者(グループ)は活動計画書をもとに指名します(メールで連絡)</p> <p>自己の活動実践の振り返り/仲間の活動からの気づきや学び.発見</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動体験のふりかえり</li> <li>2. 「ボランティア論」「ボランティア活動」のまとめとしてのレポート作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>※発表とミニレポートが評価に加算されます</li> </ul> </li> </ol>	